



DAS-JAPAN NEWS 第7号：2012年1月4日

■緊急時対応がまったくできていなかった！

このほど東日本大震災の事故調査委員会（委員長 畑村洋太郎）の結果が公表されました。これによりますと、当時の様々な問題が明らかになってきました。

1) 3年前の試算を無視

東京電力は3年前に、福島第一原発が10メートルを超える津波に襲われる恐れがあると試算し、原子力安全・保安院に報告したにもかかわらず、保安院から何ら対策の指示もなく、また東電も対策をとらなかった。

2) 自治体職員の被ばく後回し

「自分の髪を何度洗って測定しても放射能に汚染されていることがわかったが、手の施しようがなかった。実際どれくらい被爆したのかもわからず恐ろしい」と、ある職員はアンケートに答えている。当時混乱の中、職員はほとんど無防備で住民避難誘導にあたった。

3) ベントのマニュアルなし

長時間の全電源喪失時に、格納容器内の圧力を下げるためにベント（排気）を行うようになっていたが、そのマニュアルが作成されておらず、作業に手間取り初期対応に問題を生じた。

4) 水素爆発を予測せず

東電は原子炉や格納容器の状態に気をとられ、水素が原子炉建屋内に充満して爆発する危険性を考えなかった。

5) 菅首相の視察

震災の翌日、菅首相の突然の視察に現地スタッフは何のための視察なのか懐疑的だった。また首相の怒鳴り声に委縮してしまい、現実をありのまま伝えることができなかった。

実はISOのいくつかのマネジメントシステムの中に、「リスク管理」の要求事項があります。特に環境のISO14001では、ずばり「緊急時対応」の要求事項があり、万が一の地震や火災などの事故時に備え、どのように対応するかの手順を作成し、その定期的なテストまで要求されています。しかしながら、手順のテストとなると一般的に形だけのおざなりの傾向があり、実際に事故に遭遇した時に効果的に機能するかどうかを確認されていないことが少なくありません。今回の国や東電の対応も、手順のテストを真剣に行っていなかったことがこの事故により判明しました。ただでさえ人間は、実際の事故時には気持が動揺するものです。消防士の消火訓練はプロということもありますが、真剣でかつ実際的です。大いに見習うべきだと思います。

■次回ISO9001の改正可否が3月に決まる

一番ポピュラーの国際規格であるISO9001:2008は、次期どうなるかの投票が、北京で開催されたTC176総会で行われました。「確認」「改正」「破棄」の3択が実施されたようですが、その結果は2012年3月15日に正式に公表されるとのことです。今のところ「改正」が有力のようですが、もし改正と決まれば、2012年5月ごろから本格的に次期改正の仕様書の検討が開始される予定です。



DASジャパンから

■審査員の評価

弊認証機関には、現在品質、環境、情報セキュリティの審査員資格を保有している審査員が18人登録されています。審査員の登録は、業務経験、審査実績、審査員資格証などの資料を英国本部（DAS-UK）に送付し、正式に許可を得なければなりません。一方審査員の資質として重要なコミュニケーション能力や人間性については、代表の萩原が各審査員を評価し、その結果を毎年1回英国本部に伝達しています。ちなみにその評価項目を以下に示します。

1) 質問の適切性と一貫性 2) 業種の専門性 3) メモ力 4) 不適合発見力 5) 審査報告書作成力 6) 時間管理 7) 協調性 8) 柔軟性 9) 倫理性 10) 組織との相性

■審査員資格と審査工数

ISO審査員は、主任審査員、審査員、審査員補の3段階に区分されています。英国本部では、審査員以上の資格者でないと審査工数にカウントできないことになっています。また、品質と環境などの統合システムの審査では、各々主任審査員資格者を選定するよう義務づけられています。審査員資格の取得は、海外（IRCA）と日本（JRCA, CEAR）で可能ですが、DAS-UKではどちらでも審査員登録は可能です。

■「新聞違いだらけのISO」を執筆

現在、弊機関代表の萩原がISO専門誌の「ISOマネジメント」（日刊工業新聞）に、エッセイを毎月連載中ですが（DASジャパンHPに掲載中）、これとは別に、同誌の2012年4月号の特集記事に、「新聞違いだらけのISO 50問」を執筆します。代表とISOマネジメント誌との付き合いは長く、かれこれ15年ほど、さまざまなテーマで執筆し続けています。ところで、代表の数多くの著書は、一貫して組織側の立場で書かれていて、かつ内容が実体験に基づき具体性があり、全国に根強いファンがおります。また「萩原代表は何時執筆されるのですか？」という質問をよくされるのですが、普段は審査に時間をとられるので、正月休み、夏休み、5月の連休など、まとまって時間がとれるときに執筆されるとか。

代表の著書があまりにも多いので（現在33冊）、ある人から「ゴーストライター」でもいるのではと疑われたことがあったようですが、代表のISO講演での内容と著書に書かれた内容とが、ぴったり一致したことから納得したようです。

（編集責任者 萩原由利）



ISO認証機関 DASジャパン(株)
代表取締役 萩原睦幸
豊島区東池袋 4-27-5 LP 池袋 903
info@das-japan.jp
<http://www.das-japan.jp>